

# ペットショップは必要か

## ～当たり前とは何かを探る～

私たちの日常には、当たり前が沢山ある。そんな当たり前が時には、当たり前であってはいけない時もある。その一つが、「ペットショップ」だと考えている。私は、2匹の猫を譲渡会で譲り受け飼っている。もともと動物に興味があり、動物関連のテレビを観る事もあったが、実際に飼い始めてから動物のもっと深い部分にも興味を持ち始めた。多頭飼育崩壊の状態を見ると、動物が可哀そうと思うのが当たり前だろう。だが私は、人間の責任感の無さ、動物に対しての考え方の改善、について考え思う時があり、人間の動物に対する行動がおかしいと思い始めた。

何故人間は、同じ命にも関わらず、人間以外の動物をお金で取引し、命に値段をつけるのだろうか。また、何故、飼育放棄などを行い、人間と同じように対等に扱えないのだろうか。ペットショップの存在は、命に価値を付けている事と同じだ。また、それだけでは無く、繁殖させる為だけに動物を育て、動物の命を人間と同じように扱っていないのだ。この事から、「ペットショップは本当に必要なのだろうか」という疑問が生まれ、「ペットショップは本当に必要なのか」を題材にし、本論文を進めるという考えに至った。

ペットショップは必要なのか、と言うタイトルで、様々な方向からペットショップについて検討してきた結果、ペットショップは必要ではないという考えに至った。だが、ただ単に無くなれば良いと言うわけではなく、今ある形と異なった形であれば、存在する意義はあると考える。

今回、調べ検討した結果や、世界との比較を行い、改善する余地がとてもある事が分かった。ペットショップ自体を無くさなくても、販売方法など少しずつ改善して欲しい。現代社会では、新型コロナウイルスの流行により、困っている業界も多くあるが、ペット業界は好調にある。その背景として在宅が増えたことがある。だが、市場好調の裏には、飼育放棄という問題がある。この問題の要因となり、またしても人間の身勝手な行動に振り回されているのだ。この問題も先ほど挙げた「ペットを飼う上での条件」を満たしていればなんの問題にもならないのだ。

本論文ではペットショップについて扱い、世の中にある当たり前のものが、当たり前であっていいのかを検討してきた。ペットショップ以外にも当たり前ではあってはいけない、当たり前の事が多く存在する。それを、当たり前と判断するのは簡単な事であり、疑うことは難しい。だが、よく考え、間違った当たり前を無くす事に尽くして欲しい。また、私たち人間がどれほど身勝手で、人間以外の生き物を犠牲にし、生きづらくしているのかを理解して欲しい。

